

## 奄美群島振興交付金事業計画(R5)の実績に関する評価(総括)

### 1 成果目標の達成状況

評価対象 事業数	成果目標 設定数	成果目標の達成状況				【参考】 達成+ おおむね達成
		達成	おおむね達成	未達成	達成度未定	
63	74 (100%)	26 (35%)	28 (38%)	17 (23%)	3 (4%)	54 (73%)

※「達成」…達成度100%以上、「おおむね達成」…達成度70%以上100%未満、「未達成」…達成度70%未満

### 2 評価結果

【達成度の判定】 ○(達成):100%以上, △(おおむね達成):70%以上100%未満, ×(未達成):70%未満

1	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	①奄美群島から群島外に移出する農林水産物輸送量(花き除く) ②奄美群島から群島外に移出する農林水産物輸送量(花き) ③奄美地域における製造品出荷額				
	奄美群島農林水産物等 輸送コスト支援事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度	/	/
			値(①)	55,436 t	55,512 t	30,940 t	55.7%	×
			値(②)	56,156 千本	56,156 千本	50,706 千本	90.3%	△
	値(③)	20,312 百万円	21,937 百万円	23,770 百万円	108.4%	○		
事業実施年度	R 元 ~ R 5							
事業主体	今後の取組方針	奄振法の改正に伴い、令和6年度から、奄美群島一沖縄間の輸送コストが支援の対象に追加されたほか、畜産物の移出対象品目への追加や生産支援に係る移入の対象品目数が3品目から5品目に拡大されるなど、制度拡充が行われた。 今後、市町村等との連携を強化し、補助対象者の生産振興計画に基づいた取組の着実な実施による、生産振興や産業振興を図る。						
2	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	対象路線における航空輸送旅客利用者数				
	奄美群島航空運賃軽減 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度	/	/
			値	611 千人	721 千人	598 千人	82.9%	△
	事業実施年度	R 元 ~ R 5						
事業主体	今後の取組方針	引き続き、地元市町村や事業者と連携し、本事業を通じた運賃軽減に取り組む。						
3	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	対象路線における航路輸送旅客利用者数(離島割引の利用者数)				
	奄美群島航路運賃軽減 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度	/	/
			値	136 千人	136 千人	113 千人	83.1%	△
	事業実施年度	R 元 ~ R 5						
事業主体	今後の取組方針	引き続き、地元市町村や事業者と連携し、本事業を通じた運賃軽減に取り組む。						
4	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	①対象路線における航空輸送旅客利用者数 ②対象路線における航路輸送旅客利用者数				
	①奄美群島誘客・周遊促進 事業(R4~) ②奄美群島交流需要喚起 対策特別事業(~R3)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度	/	/
			値(①航空)	381 千人	450 千人	377 千人	83.8%	△
			値(②航路)	145 千人	151 千人	93 千人	61.6%	×
	事業実施年度	R 元 ~ R 5						
事業主体	今後の取組方針	引き続き、地元市町村や事業者と連携し、本事業を通じた広報宣伝等に取り組む。						

5	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美大島を除いた4島への入込客数							
	①奄美群島持続可能な観光推進事業(R5) ②奄美群島周遊観光促進事業(R4)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定			
	事業実施年度		年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度					
	R 4 ~ R 5		値	225 千人	377 千人	330 千人	87.5%	△			
	事業主体		今後の取組方針	評価	世界自然遺産登録地域を含む奄美群島国立公園地域において、持続的なまちづくりを実現するため、持続可能な観光を推進し、群島全体の観光客数を確保するとともに、データの集積・分析・活用することで、奄美群島全体の活性化を図ることを目的とし、各島の持続可能な観光に関する取組を積極的にPRするとともに、旅行代金の割引を実施した。また、クーポン券を配布することで消費意欲にも繋げた。						
奄美群島広域事務組合	観光による持続的なまちづくりを実現するため、観光客の動態データの取得実証等を行い、奄美大島だけでなく、群島全体の観光客数を確保することで、奄美群島全体の活性化を図る。										
6	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	関東、関西及び沖縄から奄美群島への入込客数							
	奄美群島誘客・周遊促進事業(「奄美・沖縄」世界自然遺産登録観光連携事業)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定			
	事業実施年度		年度	令和 元 年度	令和 5 年度	令和 5 年度					
	R 4 ~ R 5		値	245 千人	341 千人	245 千人	71.8%	△			
	事業主体		今後の取組方針	評価	日頃から「奄美・沖縄」に関心を持つ層及び世界自然遺産や自然へ興味・関心がある層に対して、「奄美・沖縄」WEBサイトを活用し各エリアの魅力発信を行うことで、来訪意欲を高めるとともにレスポンスブルツーリズムの推進へつなげることができた。						
奄美群島航空・航路運賃軽減協議会	令和5年度事業で提案されたペルソナ(奄美・沖縄や自然環境に興味・関心がある層)に対して、旅行促進につながるプロモーション等を検討・実施する。										
7	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	①対象路線における航空輸送旅客利用者数 ②対象路線における航路輸送旅客利用者数							
	奄美・沖縄連携交流促進事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定			
	事業実施年度		年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度					
	R 元 ~ R 5		値(①航空)	54 千人	64 千人	80 千人	125.0%	○			
	事業主体		今後の取組方針	評価	値(②航路)				75 千人	78 千人	50 千人
奄美群島航空・航路運賃軽減協議会	対令和元年度比、対前年度比ともに増加し、最終目標達成度は航空：125%、航路：64%であったが、通年での交流が図られた。										
8	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	海面漁業の生産額							
	水産資源利用開発調査		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定			
	事業実施年度		年度	平成 27 年度	令和 5 年度	令和 5 年度					
	R 元 ~ R 5		値	10,170 百万円	10,382 百万円	8,843 百万円	85.2%	△			
	事業主体		今後の取組方針	評価	令和5年度は豪雨等の自然災害や物価高等による飼料代の高騰などにより生産量が減少し、目標値の85.2%となった。						
鹿児島県	地域特産種の資源増大や藻場造成、未・低利用資源の加工品開発を継続し、奄美群島全体の水産業振興に寄与する。										
9	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島認定エコツアーガイド数							
	①奄美世界自然遺産保全・活用推進事業(R4~) ②奄美世界自然遺産「奄美」保全・活用事業(~R3)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定			
	事業実施年度		年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度					
	R 4 ~ R 5		値	85 人	160 人	176 人	110.0%	○			
	事業主体		今後の取組方針	評価	世界遺産委員会からの要請事項への対応を図るとともに、金作原など保護が重要な地域における利用ルールの運用や「世界自然遺産奄美トレイル」の認知度向上のため県観光サイトへの特集ページを作成、世界自然遺産に登録されている奄美大島、徳之島、屋久島の高校生を対象とした自然体験型交流学习などに取り組んだ。						
鹿児島県	奄美大島、徳之島の世界自然遺産登録地域の適切な保全・管理に向けて、遺産としての価値の維持、自然環境の保全と利用の両立や気運の醸成など、必要な取組を推進する。										

10	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	ハブ咬傷者数					
	ハブ対策事業(ハブ駆除対策事業)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	H19~H28の平均	令和 5 年度	令和 5 年度			
			値	55.7 人	45 人以下	37 人	達成	○	
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	咬傷者数は37人で、目標を達成した。				
事業主体	今後の取組方針	ハブ咬傷者数40人以下を目標として、引き続きハブに関する情報提供に努めるとともに、ハブ個体群変動調査等を行い、ハブとの棲み分けの検討を進める。							
	鹿児島県								
11	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	ハブ咬傷による死亡者数					
	ハブ対策事業(ハブ咬症対策事業)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	平成 26 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
			値	1 人	0 人	0 人	達成	○	
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	ハブ咬傷による死亡者の発生はなかった。				
事業主体	今後の取組方針	ハブ咬傷による死亡者発生0を目標とし、咬傷時に備え医療機関等へ抗毒素の配備を行う。							
	鹿児島県								
12	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	①葉にんにくの生産性向上(単収増加) ②島らっきょうの生産性向上(単収増加) ③奄美プラム(カラリ)の生産性向上(大玉系統の栽培面積拡大)					
	農業創出緊急支援推進事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
			値(①)	710 kg/10a	920 kg/10a	922 kg/10a	100.2%	○	
			値(②)	700 kg/10a	900 kg/10a	957 kg/10a	106.3%	○	
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	値(③)	25 ha	30 ha	33.8 ha	112.7%	○
	事業主体			今後の取組方針	葉にんにく及び島らっきょうの優良系統のウイルスフリー苗は、いずれも在来系統より増収することを認めた。 奄美プラム(大玉系統)の施肥試験により、開花不良を軽減できる施肥体系等の試験結果が得られ、生産安定対策マニュアルを作成した。  マンゴーでは、気象条件等により島外へ出荷できなくなる流通条件の不利性、えだまめでは重粘土壌における栽培の不安定性がそれぞれ課題となっており、改善に向けた検討を行う必要がある。このため、出荷調整を行いやすいマンゴーの品種の検討や、重粘土壌におけるえだまめの栽培技術の確立を行い、出荷の安定化や生産安定・拡大を図るとともに農家所得の向上を目指す。				
	鹿児島県								
13	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	適期管理による単収の向上(kg/10a)					
	さとうきび産地活性化事業(さとうきび機械導入支援事業)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	H24~H30の平均値	令和 5 年度	令和 5 年度			
			値	4,847 百万円	5,737 百万円	5,217 百万円	90.9%	△	
	事業実施年度		R 3 ~ R 5	評価	機械導入等の支援により、さとうきびの適期管理が図られ、目標達成ができた。				
事業主体	今後の取組方針	さとうきびの効率的・安定的な生産体制を確立するため、引き続き、作業受託組織等を対象に機械整備等の支援を行う。							
	鹿児島県								
14	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島の宿泊観光客数					
	奄美パーク展示等リニューアル事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
			値	775 千人	1,000 千人	984 千人	98.4%	△	
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	わずかに目標を達成できなかったが、奄美群島の観光客の来訪及び滞在の促進に貢献できるよう努めたい。				
事業主体	今後の取組方針	奄美大島が世界自然遺産に登録され、情報発信拠点施設としてより重要な施設となることから、引き続き着実に事業の推進を図る。							
	鹿児島県								
15	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島の農業産出額の増加					
	農業創出緊急支援事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	平成 28 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
			値	36,942 百万円	40,636 百万円	- 百万円	-	-	
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	※統計数値が示されていないため達成度未定 年度内での事業の執行に努め、99.6%と高い執行率となっている。				
事業主体	今後の取組方針	引き続き、付加価値の高い農業の推進と台風災害に強い施設等を整備し、農業の生産基盤整備を図る。							
	市町村、営農集団等								

16	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美大島への入込客数				
	魅力ある観光立島促進 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 2 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	311,000 人	530,000 人	493,531 人	93.1%	△
	事業実施年度		R 4 ~ R 5	評価	クルーズ船寄港回数がコロナ禍以前の水準に回復。昨年に引き続き、増加する外国人観光客やワーケーション需要に対応できるよう、多言語化やWifi整備に対する助成等を行った。			
事業主体	今後の取組方針				新型コロナによる行動制限が解除され、入込客数も回復傾向であることから、今後はこれまで実施してきた受入体制整備を活かしながら、貴重な自然環境について周知、理解を促進することで、環境の保全と利用の両立を図り、インバウンドも含め、誰もが楽しめる観光を目指し、その推進に取り組む。			
奄美市								
17	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	体験事業・交流イベント開催による受入人数				
	①大和村国直地区:体 験事業(R5) ②大和村観光機能向上 事業(~R4)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	1,868 人	3,000 人	1,152 人	38.4%	×
	事業実施年度		R 3 ~ R 5	評価	アフターコロナによる誘客を促進するため、観光情報発信及び集落マップデザインの作成を行うとともに、観光誘客キャンペーンを実施することにより、宿泊と体験を結ぶ取組が展開できた。			
事業主体	今後の取組方針				令和6年度、奄美大島発の天然温泉複合施設が本村に開園され、今後観光客の増加が期待されることから、本村の情報発信による誘客の促進と観光外貨を稼ぐため、温泉施設と村内宿泊・体験を有機的に結ぶ取り組みを加速させることにより、地域循環の観光振興を図る。			
大和村								
18	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	宇検村の観光拠点施設への訪問者・問合せ数				
	持続可能な観光による 地域デザイン計画策定 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 元 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	37,373 人	40,000 人	35,375 人	88.4%	△
	事業実施年度		R 4 ~ R 5	評価	単独で運営していた関係競技会組織を再編成して1本化し、「宿泊」「食事」「体験」の関係者間の連絡及び協力体制が強化されている。			
事業主体	今後の取組方針				村観光物産協会を中心とした様々なイベントの開催による誘客活動を行っていく。			
宇検村								
19	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	来島者動向モニタリングシステムにおける滞在満足度指標				
	フローラルな新商品 開発事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	3.8	4.2	4.9	116.7%	○
	事業実施年度		R 5	評価	目標値を上回る数値となり、本事業の成果目標は達成したと評価できる。			
事業主体	今後の取組方針				当初は単年度事業として本事業を実施したが、想定を超える応募数があり、事業実施後も町内にて需要が高まっていることから、令和7年度以降に継続して実施していく予定である。新商品開発を行うことによる地域経済の活性化及び滞在満足度向上に今後も努めていく。			
知名町								
20	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	与論島への入込客数				
	デジタルマーケティング 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	72,000 人	90,000 人	59,043 人	65.6%	×
	事業実施年度		R 4 ~ R 5	評価	冬場のヨロン島を宣伝する観光PR動画の制作及び制作動画等の広告配信を実施。加えて、冬場に開催されるイベント(十五夜踊り、ヨロンマラソン)に関する動画配信やインスタライブの実施により、冬場のヨロン島の魅力発信に繋がった。			
事業主体	今後の取組方針				令和6年度以降も年間を通じた来訪誘客を図るため、冬場のヨロン島の魅力発信に努めるとともにヨロンファンを対象としたアンケート調査や座談会を実施し、冬場のヨロン島に求められている魅力等の把握に努めていく。			
与論町								

21	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	星空等ツアープログラム数				
	ヨロン島地域資源活用 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	0 件	10 件	10 件	100.0%	○
	事業実施年度		R 2 ~ R 5	評価	ガイドスキルアップ講座、新規ガイド育成講座、星空観望会や星空関連イベントを通じた光害の啓発、会報誌の配布等を実施したことで、島民への意識情勢や旅行客の誘客に繋がっている。			
事業主体 与論町	今後の取組方針	令和6年度以降も星空観望会や会報誌の配布等を通じた光害の啓発及び意識情勢を図るとともに、ガイド育成講座によるガイド数の確保やツアープログラムの造成を図ることで、旅行客の誘客及び持続可能な観光地づくりに努める。						
22	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	与論町への入込客数				
	地域商品券付旅行商品 造成事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	72,000 人	90,000 人	59,043 人	65.6%	×
	事業実施年度		R 5	評価	一定の宿泊日数以上滞在する来島者へ町内の体験プログラムで利用できる地域商品券を付与し、体験プログラムの利用促進や認知度向上、滞在日数の増加による地域経済の活性化に繋がった。			
事業主体 与論町	今後の取組方針	令和6年度以降も地域商品券の付与による体験プログラムの利用促進や滞在泊数の増加による地域経済の活性化に努める。						
23	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島全体における入込客数				
	観光拠点連携整備事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	825,791 人	950,000 人	823,238 人	86.7%	△
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	入込客数は回復傾向にあるが、目標達成には至らなかった。			
事業主体 市町村	今後の取組方針	アフターコロナを見据え、今後も増加が見込まれている観光客を受け入れる体制作りのため、引き続き当事業で拠点施設の整備を進める。						
24	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美野生生物保護センター来館者数				
	アマミノクロウサギ飼育 展示施設整備事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	11,000 人	20,000 人	11,209 人	56.0%	×
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	引き続き、建築工事にあった。施設に必要な人材の確保、施設名やロゴの制作にあった。			
事業主体 大和村	今後の取組方針	展示工事に着手する。また、R7年4月開所を目指し、クロウサギ飼育に係る法令順守手続きや施設の管理運営に係る具体的な検討を進める。						
25	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	①加計呂麻島への入込客数(交流人口) ②ターミナル施設の利用者数(地域住民及び交流人口)				
	加計呂麻島ターミナル 整備事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 元 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値①	46,736 人	50,000 人	41,507 人	83.0%	△
	事業実施年度		R 3 ~ R 5	値②	50,000 人	53,000 人	43,000 人	81.1%
事業主体 瀬戸内町	今後の取組方針	当該事業期間は令和3年度から令和7年度までの5年間と計画しており、事業評価についてはターミナル完成及び駐車場整備完了後(令和7年度)の達成度の評価を行うこととしている。						
			今後の取組方針	令和5年度の補正予算を活用し、施設建設に取り組んでいるところである。施設の完成については令和6年度末を予定し、旧待合所の解体及び駐車場整備については令和7年度を予定している。				

26	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	拠点施設の管理運営に係る運営推進事業受講者				
	徳之島町観光拠点施設 整備事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	0 人	12 人	11 人	91.7%	△
	事業実施年度		今後の取組方針	評価	令和5年度について、ハード面では施設の整備や外構工事(一部)を行い、ソフト面では管理運営を担う人材育成事業を行った。			
R 4 ~ R 5	令和6年度について、ハード面では外構工事含め整備を完了させ、ソフト面ではオープンに向け、管理運営を担う人材育成事業を行う。							
事業主体	徳之島町							
27	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	来島者動向モニタリングシステムにおける満足度指標				
新たな観光案内道標設 置整備事業	区分		基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
	年度		令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		0 人	4.2 人	3.7 人	88.1%	△	
事業実施年度	今後の取組方針		評価	※令和6年度へ繰越				
R 5		整備されて10年以上となり、経年劣化や破損等がみられる既設観光道標を撤去し、新たな観光道標を設置することにより、来島者の利便性向上につなげる。						
事業主体	和泊町							
28	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	来島者動向モニタリングシステムにおける満足度指標				
新たな観光案内道標設 置整備事業	区分		基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
	年度		令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		3.8	4.2	3.9	92.9%	△	
事業実施年度	今後の取組方針		評価	当初、令和5年度内に観光案内道標を設置予定であったが、道標の設置工事を翌年度に繰越して実施することとなったため、指標としては目標に達しなかった。				
R 5		令和5年度において発注した実施設計業務の成果物を基に、令和6年度において道標の設置工事を発注し同年度内に完了予定。						
事業主体	知名町							
29	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	佐仁地区休憩施設利用者数(トイレ・駐車場・広場)				
佐仁地区休憩施設整備	区分		基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
	年度		令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		0 人	5,000 人	2,300 人	46.0%	×	
事業実施年度	今後の取組方針		評価	令和5年12月からの供用開始となったため、目標達成には至らなかった。利用者数実績(4ヶ月)から年間利用人数を推計すると、翌年度は達成が見込まれる。				
R 4 ~ R 5		休憩施設の周知を行うとともに、佐仁地区の集落行事をはじめとする観光情報を発信し、観光交流人口の増加及び周遊型観光の促進を図る。						
事業主体	奄美市							
30	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	瀬戸内町への年間の入込客数の増加				
高知山観光トイレ整備 事業	区分		基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
	年(暦年)		令和 2 年	令和 5 年	令和 5 年			
	値		93,000 人	150,000 人	136,818 人	91.2%	△	
事業実施年度	今後の取組方針		評価	令和4年度よりは増加しているものの、目標入込客数には届かなかった。R6.1月~3月のピーチ減便の影響も考えられる。				
R 4 ~ R 5		令和5年11月に完成し利用を開始した。利用者が満足できる施設の維持管理にも留意しながら、今後も癒やしの島を満喫できるよう、各種施策と連携しつつ観光客の受入増加を図りたい。						
事業主体	瀬戸内町							
31	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	イベント開催数				
西郷小浜公園整備事業	区分		基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
	年(暦年)		令和 2 年	令和 5 年	令和 5 年			
	値		0 回	3 回	2 回	66.7%	×	
事業実施年度	今後の取組方針		評価	工事完了に伴い、八月踊り等のイベントを実施したが、目標の達成には至らなかった。				
R 4 ~ R 5		今後は西郷隆盛ゆかりのイベントのほか、島唄イベント等を企画し、島内外から集客ができるよう、さらなる活用を検討していく。						
事業主体	龍郷町							

32	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	徳之島への入込客数				
	あまぎ自然と伝統文化 体験館整備事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	128,000 人	132,000 人	131,295 人	99.5%	△
	事業実施年度		今後の取組方針	評価	1階躯体工事について2/3が完了した。(残はR6年度予算にて完了。)施設が完成していないため達成状況に直接的な影響はないが、コロナ禍以降、入込客数は回復傾向にある。整備に併せて、施設運用へ向けた関係機関との協議の場を持ち、共用開始後の目標達成に向け、事業推進を図る。			
事業主体	天城町	早期の事業着手、計画的な予算執行に努め、年次的に事業推進できるよう細部調整に努める。世界自然遺産登録やコロナ禍からの回復による観光需要の増加を見据え、多様な観光ニーズを的確に捉えつつ事業推進を図る。						
事業実施年度		R 2 ~ R 5						
事業主体		天城町						
事業主体	天城町							
33	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	チャレンジ世代(20~44歳)人口				
	奄美群島成長戦略ビジョン実現事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 27 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	23,626 人	21,300 人	19,611 人	92.1%	△
	事業実施年度		今後の取組方針	評価	令和5年度の目標を達成していないが、引き続き人材の確保に努め、奄美群島の産業振興を図る。			
事業主体	奄美群島広域事務組合	「奄美群島成長戦略ビジョン2033」に向け、引き続き各種事業を積極的に展開していく。						
事業実施年度		R 元 ~ R 5						
事業主体		奄美群島広域事務組合						
事業主体	奄美群島広域事務組合							
34	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島における民間主導型の産業振興モデル構築に資する新規起業及び新商品・サービスの累計創出件数				
	奄美群島民間主導型産業振興モデル構築支援事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	0 件	20 件	15 件	75.0%	△
	事業実施年度		今後の取組方針	評価	島ちゅチャレンジ:募集件数27件 採択件数6件 事業完了6件 人材育成成果発表会運営:奄美群島で活躍する民間事業者等の事例発表を行う「島サバクリエイティブGCD(ガンド)」を徳之島にて開催した。			
事業主体	奄美群島広域事務組合	奄美群島内の産業分野を超えた横断的な事業者連携による起業支援体制を構築することで、奄美群島における民間主導型の産業振興モデルの充実化を図る。						
事業実施年度		R 4 ~ R 5						
事業主体		奄美群島広域事務組合						
事業主体	奄美群島広域事務組合							
35	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	R元~R5年度の移住体験事業参加者のうち、移住した者の数				
	①奄美群島移住支援推進事業(R5) ②UIOターン支援体制構築推進事業(~R4)		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	0 人	43 人	45 人	104.7%	○
	事業実施年度		今後の取組方針	評価	令和5年度の目標値である43名に対し、45名と目標を達成することができた。ご家族で移住した方が2組いたことで全体の移住者数が増加することにつながった。今後も市町村と連携を図るとともに、年間を通じた移住支援の情報発信を行っていく。			
事業主体	奄美群島広域事務組合	移住者・交流人口増加のため、都市部の移住・交流フェアへの参加や移住体験プログラムの周知、空き家対策の取組を行う。						
事業実施年度		R 元 ~ R 5						
事業主体		奄美群島広域事務組合						
事業主体	奄美群島広域事務組合							
36	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島認定エコツアーガイド数				
	奄美群島エコツーリズム推進事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	85 人	160 人	176 人	110.0%	○
	事業実施年度		今後の取組方針	評価	奄美群島各島において認定エコツアーガイドを育成することにより、エコツーリズムの推進に資する人材の確保・育成に努めた。(認定:15名)			
事業主体	奄美群島広域事務組合	奄美群島認定エコツアーガイドの育成及び確保や、観光客増加に伴う各島の課題解決、特定自然観光資源の指定など、自然観光資源の保全、観光利用者の体験の質の確保について取組む。						
事業実施年度		R 元 ~ R 5						
事業主体		奄美群島広域事務組合						
事業主体	奄美群島広域事務組合							

番号	事業名		アウトカム指標	増加する外国人観光客の受入を担う奄美群島地域通訳案内士研修の修了者数					
37	奄美群島地域通訳案内士育成事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		107 人	186 人	185 人	99.5%	△		
	事業実施年度	R 元 ~ R 5	今後の取組方針	評価	地域通訳案内士育成研修を修了した者を対象にスキルアップ研修を実施した。【受講者数】31名(英語27名、中国語2名、韓国語2名)				
	事業主体	奄美群島広域事務組合			外国人観光客に奄美群島の魅力を正しく伝えられる奄美群島地域通訳案内士育成を推進し、受け入れ態勢の強化を図る。				
番号	事業名		アウトカム指標	奄美群島への入込客数の内、観光客数					
38	奄美群島観光物産広域連携事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		343,741 人	386,251 人	450,813 人	116.7%	○		
	事業実施年度	R 元 ~ R 5	今後の取組方針	評価	コロナ感染症による影響を受け物産展等の開催回数の減少はあったものの、ECサイトの構築、物産展等を開催するとともに、大都市圏における旅行説明会や、FAMトリップの開催を通じ、旅行者、一般消費者にそれぞれターゲットを絞ったアピールを実施出来た。併せて観光客の満足度等を図るためアンケートを引き続き実施した。				
	事業主体	奄美群島広域事務組合			引き続き、奄美群島観光物産協会と連携し、観光交流人口増加に向けた旅行喚起施策等及び物産面のブランディングを積極的に展開する。				
番号	事業名		アウトカム指標	奄美黒糖焼酎移出货量					
39	奄美黒糖焼酎販路拡大・人材育成事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年(暦年)	平成 30 年	令和 5 年	令和 5 年			
	値		7,385 kℓ	7,800 kℓ	6,791 kℓ	87.1%	△		
	事業実施年度	R 3 ~ R 5	今後の取組方針	評価	奄美黒糖焼酎事業者、関係者からなるワーキンググループにおいて海外販路拡大に係る会議を行い、JapaneseFoodExpoinLAおよびSakeFestivalへの出展、フランスバイヤーの招へいを行った。				
	事業主体	奄美群島広域事務組合			黒糖焼酎の海外販路拡大に向け、引き続きワーキンググループを運営、海外でのPR活動を行うなどにより海外販路の拡大や人材育成を行う。				
番号	事業名		アウトカム指標	奄美群島全体における入込客数					
40	観光マスタープラン策定調査	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		556,716 人	950,000 人	823,238 人	86.7%	△		
	事業実施年度	R 4 ~ R 5	今後の取組方針	評価	奄美群島全体の観光に関する方向性についてのマスタープラン策定の為策定委員会の設立を行い各島での現状や課題を基にマスタープランを策定した。				
	事業主体	奄美群島広域事務組合			奄美群島の観光計画の策定し、持続可能な観光振興を図る。				
番号	事業名		アウトカム指標	奄美群島全体における入込客数					
41	奄美群島歴史文化活用事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定	
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値		556,716 人	950,000 人	823,238 人	86.7%	△		
	事業実施年度	R 5	今後の取組方針	評価	支援件数5件であり、地域住民が奄美固有の自然環境や方言を学習する取組みに対して支援した。				
	事業主体	奄美群島広域事務組合			R5年度の単年度実施事業。				

42	番号	事業名	アウトカム指標	奄美スポーツキャンプにおいて、来島宿泊する延人数				
	成果 目標 及び 達成 状況	奄美市 スポーツキャン プ誘客拡大事業	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	12,000 人	13,000 人	15,535 人	119.5%	○
			評価	目標を大きく上回り、達成度は119%となった。これまでの取り組みの成果が出ていていると考える。これからも引き続き取り組みを実施していくとともに、受け入れ側と来島者側のバランスを考慮しながら、スポーツ合宿による誘客・交流人口拡大に向けた取組を推進していきたい。				
事業実施年度	R 3 ~ R 5	今後の取組方針	これまで培ったチームとの関係をキャンプの継続実施に繋げるとともに、誘客拡大に向けた取組についても引き続き実施し交流人口の拡大を図る。					
事業主体	奄美市							
43	番号	事業名	アウトカム指標	与論島への入込客の増加数(ボランティア体験モニターツアー参加者)				
	成果 目標 及び 達成 状況	ボランティア体験ツア ー 事業	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	21 人	28 人	32 人	114.3%	○
			評価	ヨロンマラソン前後の期間に実施したボランティア体験モニターツアーへ32人(学生29人、一般3人)が参加し、ボランティア不足を解消するとともにボランティアを通じた住民との交流により地域活性化が図られた。				
事業実施年度	R 5	今後の取組方針	R5年度実施により、ボランティア体験ツアーは学生のニーズが高く、大会運営に関する地域の負担軽減や活性化が見られたことから、継続に向けて受入体制の整備や財源確保等を進めていく。					
事業主体	与論町							
44	番号	事業名	アウトカム指標	①防災行政無線の整備率 (R5年度目標はデジタル無線での整備率を加味した目標) ②防災拠点施設(避難所等)要修復箇所数				
	成果 目標 及び 達成 状況	防災関連施設整備事業	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値(①)	58 %	83 %	100.0 %	達成	○
			値(②)	114 か所	41 か所	70 か所	170.7%	○
事業実施年度	R 元 ~ R 5	評価	着実に要修復箇所の整備が進められている。					
事業主体	奄美市他7町村	今後の取組方針	台風常襲地帯である奄美群島において、安全・安心な環境を整備していく必要性は高いため、引き続き事業を実施していく。					
45	番号	事業名	アウトカム指標	留学生人数				
	成果 目標 及び 達成 状況	奄美らしい離島留学推 進事業	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	27 人	50 人	78 人	156.0%	○
			評価	令和5年度の奄美群島の小学校・中学校・高等学校に留学する人数は78人であり、目標値を上回った。				
事業実施年度	R 元 ~ R 5	今後の取組方針	今後とも集落文化の担い手不足や小・中学校及び高校の存続、産業の担い手不足を解決するため、離島留学の取組を実施していく。					
事業主体	大和村外6町村							
46	番号	事業名	アウトカム指標	ノヤギの捕獲頭数				
	成果 目標 及び 達成 状況	ヤギ被害防除対策事業	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	217 頭	165 頭	201 頭	121.8%	○
			評価	令和5年度のノヤギの捕獲頭数は201頭であった。野生化したヤギを防除することで、植生破壊や土砂崩壊による海洋汚染等を未然に防ぐことが出来た。				
事業実施年度	R 元 ~ R 5	今後の取組方針	引き続きノヤギ捕獲により生息数の減少を図る。また、今後生息数の調査が検討されており、調査結果を踏まえ、事業効果の分析を行うこととする。					
事業主体	奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町							

番号	事業名		アウトカム指標	モニタリング調査を継続実施した箇所において、 ①サンゴ礁被度がH28(またはH28以降初めて調査した年(以下、「H28※」と表記))と比較して5%以上、上昇した箇所数の増加 ②サンゴ礁被度がH28※比で5%以上、低下した箇所数 ③サンゴ礁被度がH28※比で新たに60%以上となる箇所数				
47	サンゴ礁保全対策事業	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値(①)	88 箇所	120 箇所以上	53 箇所	44.2%	×
			値(②)	42 箇所	11 箇所以下	22 箇所	200.0%	○
	値(③)	31 箇所	73 箇所以上	33 箇所	45.2%	×		
事業実施年度	R 元 ~ R 5	事業主体	今後の取組方針	令和5年度の実績はそれぞれ①53か所、②22か所、③33か所であった。オニヒトデ駆除数は減少傾向にあるが、引き続きモニタリングを実施し目標達成を図っていく。				
事業主体	市町村、奄美群島サンゴ礁保全対策協議会	今後の取組方針	モニタリング調査結果を踏まえ、サンゴ礁の被度の地域毎の傾向を分析しつつ、効果的な事業を実施していく。					
番号	事業名		アウトカム指標	ネコの不妊手術件数				
48	ネコ対策事業	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	1,539 件	1,030 件	669 件	65.0%	×
			評価	令和5年度のネコの不妊手術件数は669件であった。未手術の個体数が減少していることより、実績が減少しているが、飼い猫の不妊手術、野良猫のTNR等を通し、ネコの自然増加を抑制し生態系保全の取組を推進することが出来た。				
	事業実施年度	R 元 ~ R 5	事業主体	今後の取組方針	引き続き関係市町村、関係機関との連携しつつ、猫の不妊手術を行っていく。			
事業主体	奄美大島5市町村 徳之島3町	今後の取組方針	引き続き関係市町村、関係機関との連携しつつ、猫の不妊手術を行っていく。					
番号	事業名		アウトカム指標	パトロール1回あたりの希少種確認種数の積み上げ				
49	奄美大島希少野生動植物保護事業	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	1,000 種	1,000 種	7,000 種	700.0%	○
			評価	令和5年度の希少動物確認種数の積み上げは7,000種と目標を大きく上回ることができた。				
	事業実施年度	R 元 ~ R 5	事業主体	今後の取組方針	引き続き、希少種の生息状況及び生息地等について盗採防止のパトロール等を実施することで希少野生動植物の保護に努める。			
事業主体	奄美大島自然保護協議会	今後の取組方針	引き続き、希少種の生息状況及び生息地等について盗採防止のパトロール等を実施することで希少野生動植物の保護に努める。					
番号	事業名		アウトカム指標	自然体験参加者の環境保全活動の取り組み率				
50	徳之島希少野生動植物保護事業	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	0 %	50 %	31 %	62.0%	×
			評価	盗掘・盗採パトロールを行うとともに外来種の駆除を行った。また普及啓発を行い、住民等の環境保全に関する意識向上を図った。				
	事業実施年度	R 4 ~ R 5	事業主体	今後の取組方針	引き続き、希少種の生息状況及び生息地等について盗採防止のパトロール等を実施することで希少野生動植物の保護に努める。			
事業主体	徳之島3町	今後の取組方針	引き続き、希少種の生息状況及び生息地等について盗採防止のパトロール等を実施することで希少野生動植物の保護に努める。					
番号	事業名		アウトカム指標	補助申請件数				
51	奄美群島加工品販路拡大実証事業	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 元 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	0 件	32 件	28 件	87.5%	△
			評価	令和5年度は28件の申請件数があり目標を下回る実績となった。				
	事業実施年度	R 2 ~ R 5	事業主体	今後の取組方針	周知を徹底し、申請及び助成件数増へとつなげ、事業者を引き続き支援することで、販路拡大の機会創出を図るとともに事業者の育成に繋げる。			
事業主体	奄美市外4町村	今後の取組方針	周知を徹底し、申請及び助成件数増へとつなげ、事業者を引き続き支援することで、販路拡大の機会創出を図るとともに事業者の育成に繋げる。					

52	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島から沖縄本島に移出する水産物輸送量				
	奄美群島水産物流通支 援事業		区分	基準	目標(中間)	実績	達成度	判定
			年度	平成 29 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	580 トン	643 トン	1,147 トン	178.4%	○
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	令和5年度の奄美群島から沖縄本島に移出する水産物輸送量は1,147トンであり、目標値を上回った。			
事業主体	今後の取組方針	引き続き沖縄県の市場への出荷することにより、販路拡大を目指す。						
奄美市外5町								
53	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	奄美群島における海面漁業の生産額				
	奄美群島水産業活力向 上プロジェクト事業		区分	基準	目標(中間)	実績	達成度	判定
			年度	平成 27 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	10,170 百万円	10,382 百万円	10,840 百万円	104.4%	○
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	需要回復によるものと考えられる養殖生産量及び生産額(主にクロマグロ、カンパチ)の増加により、目標値の約104%となった。			
事業主体	今後の取組方針	シラヒゲウニについては、これまで実証試験等で集積した知見をもとに種苗生産に関するマニュアルを作成し、関係者に配布した。今後種苗生産を要望する地域がある場合は、マニュアル等をもとに各自治体で検討する。 ヤコウガイについては、種苗生産試験を複数回実施したものの、目的としていた結果は得られず、現地での種苗生産は困難であることが判明した。現状の資源状態を悪化させないよう、資源管理や漁業生産の安定を図る取り組みについて引き続き検討を行う。						
市町村、奄美群島水産 振興協議会								
54	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	交流人口動態調査の結果における奄美大島観光の満足度(大変満足)のシェア				
	観光拠点連携情報発信 事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 元 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	59 %	64.0 %	48.5 %	75.8%	△
	事業実施年度		R 元 ~ R 5	評価	満足度についてはやや改善したが、目標値と比較すると依然低いままである。特に、引き続き「交通」への満足度の低さが顕著。一方「宿泊・飲食」についてはやや改善傾向。新型コロナの落ち着きに伴い島外客も利用しやすくなったことが要因と考えられる。			
事業主体	今後の取組方針	引き続き、満足度調査の項目(宿泊、食事、土産、交通、観光施設、自然景観、ホスピタリティ)ごとに分析、合同専門委員会を通して情報の共有を図り改善に取り組む。						
あまみ大島観光物産連 盟								
55	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	本場奄美大島紬協同組合による本場奄美大島紬検査反数				
	本場奄美大島紬生産流 通活性化事業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	3,874 反	4,648 反	2,710 反	58.3%	×
	事業実施年度		R 3 ~ R 5	評価	【R5年度】2,710反 (達成率参考)令和5年度目標4,648反に対する達成度は58.3%であった。 令和5年12月10日:奄美群島日本復帰記念式典に合わせて東京販売会を行い、奄美出身者との親睦を図るとともに、大島紬の販売促進を図ることができた。 令和6年2月12日~14日:福岡県久留米市にて産地視察を実施、他産地の販売方法、製品の作製状況、市場開拓の仕組み、織物産地としての活動状況等を視察し、今後の大島紬の流通の活性化につなげていくヒントを得ることができた。 令和6年2月19日~21日:島外の和装関係者を対象にモニターツアーを実施、12社15名に来島いただいた。昨年同様「本場奄美大島紬グランプリ」の審査に参加いただき、今後の商品開発や情報発信につなげた。			
事業主体	今後の取組方針	令和3年度策定の「第2期産地再生計画」を基に、島内外での販路開拓事業を展開するとともに、認知度向上、需要喚起を図るためのPR事業も展開する。						
奄美市								
56	事業名	成果 目標 及び 達成 状況	アウトカム指標	受診患者件数				
	宇検村医療体制強化事 業		区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和 2 年度	令和 5 年度	令和 5 年度		
			値	4,000 人	4,800 人	10,047 人	209.3%	○
	事業実施年度		R 4 ~ R 5	評価	施設整備に着手。令和6年12月の開院に向けて事業推進中。			
事業主体	今後の取組方針	現在施設整備中。令和6年12月の開院に向けて事業を進める。						
宇検村								

番号	事業名		アウトカム指標	奄美群島チャレンジ事業への応募・提案件数				
57	海洋教育を中心とした問題解決型学習による人材育成事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和元年度	令和5年度	令和5年度		
	値		0件	3件	3件	100.0%	○	
	事業実施年度		R3～R5	評価	人材育成講座(定員8名)を実施し10名が受講(2名途中辞退)。講座の成果発表会と合わせて実施したビジネスプランコンテスト(イノベーションAWARD2024)では6名が発表し、4名(4事業)を優良事業として選定するなど目標達成に向けて取組みを進めている。また、R4年度に選定された事業について資金助成及び有識者による伴走支援を実施。(3名に伴走支援を実施)			
	事業主体	今後の取組方針	引き続きPBLによる人材育成講座及びビジネスプランコンテストを実施するとともに、町内外の関係機関等と連携しながら起業・創業支援体制を構築し、人材育成・起業支援を実施する。					
	与論町							
番号	事業名		アウトカム指標	『経済センサス基礎調査』の事業所数総数を指標とし、目標値は目標年度に公表される数値とする。				
58	政策連携による多様な働き方モデル創出事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和元年度	令和5年度	令和5年度		
	値		2,672件	2,680件	—件		—	
	事業実施年度		R4～R5	評価	事業全体の成果目標に対する達成状況は、R6年度に実施される経済センサス基礎調査をもって評価することとするが、個別事業に関しては、9名の創業者の創出や68名の方へのフリーランス支援の実施、また、伴走型支援のデジタルマーケティングスキル習得事業として14名の方への支援に対し、満足度は9割以上が「満足した」という評価の高い結果となった。			
	事業主体	今後の取組方針	民間事業者との連携や、各個別事業間の連携を図り、市内事業者やフリーランス、創業者などの求めているニーズ把握に努め、より内容の充実した人材育成等の支援を実施できるよう事業を展開するとともに、事業最終年度となるR6年度は、事業実績についての効果測定を実施し、民間事業者主導でできる部分と、行政として支援が必要な部分を整理する。					
	奄美市							
番号	事業名		アウトカム指標	生産年齢人口(人数)				
59	Uターン促進事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和2年度	令和5年度	令和5年度		
	値(①)		4,455人	4,475人	3,888人	86.9%	△	
	事業実施年度		R4～R5	評価	HP等で周知したもののUターン者の実績は0件であった。生産年齢人口(人数)については、総人口の減にともない、未達成となった。			
	事業主体	今後の取組方針	R6年度も継続して事業を実施しUターン者の増加に努める。					
	瀬戸内町							
番号	事業名		アウトカム指標	奄美群島における総生産額				
60	新型コロナウイルス感染症対策利子補給事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	平成27年度	令和5年度	令和5年度		
	値		322,597百万円	344,123百万円	百万円		—	
	事業実施年度		R3～R5	評価	※統計数値が示されていないため達成度未定			
	事業主体	今後の取組方針	引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、経営に支障を来している者に対し、利子補給の支援を実施することで産業の活性化を図る。					
	奄美群島12市町村							
番号	事業名		アウトカム指標	インターネット塾受講人数(累計)				
61	ICTを活用した教育推進事業	成果目標及び達成状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
			年度	令和元年度	令和5年度	令和5年度		
	値		13人	53人	31人	58.5%	×	
	事業実施年度		R2～R5	評価	引き続き全3学年を対象に開塾した。3年生には受験対策を図り、1・2年生には基礎学力の向上が早い段階で培われ、勉強に対する「気持ち」「姿勢」を身につけることが出来た。また、今後の生徒本人の「人間力」の向上にも繋がる事が期待できる。			
	事業主体	今後の取組方針	R5年度は前年度と比較して人数が減少している。本事業を開始したH29年度と比較すると参加人数は減少傾向にある。今後、本事業の方針や生徒の「人間力」が将来において、必要とされる事を保護者に伝え、理解していただき生徒の参加を促す。					
	大和村							

62	番号	事業名	アウトカム指標	当該大会がもたらす経済効果					
		奄美群島日本復帰70周年事業 離島甲子園in奄美	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
	年度			令和 - 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値			- 人	64,029 人	80,300 人	125.4%	○	
	事業実施年度	R 5	評価	大会には過去最多の25チームが参加し、目標の1.25倍の経済効果を地元にもたらすことができた。					
事業主体	奄美市	今後の取組方針	R5年度の単年度実施事業。						
63	番号	事業名	アウトカム指標	①養殖リュウキュウアユの死亡率(5月～10月) ②水生移入生物の駆除数					
		リュウキュウアユ保護増殖事業	成果 目標 及び 達成 状況	区分	基準	目標(最終)	実績	達成度	判定
	年度			令和 3 年度	令和 5 年度	令和 5 年度			
	値(①)			46.76 %	40.00 %	91.49 %	未達成	×	
	事業実施年度	R 5	評価	①目標を上回る死亡率となっており、養殖個体数は大きく減じた。 ②目標を大きく下回る達成度だが、水生移入生物の駆除を平成28年度から継続していることから、外来種の個体数が順調に減っていることが要因であると考えられる。					
事業主体	奄美大島自然保護協議会ヤジ分会	今後の取組方針	①天然のリュウキュウアユを採捕することで、養殖個体数の増加及び死亡率の減少に努める。 ②水生移入生物の駆除により、天然のリュウキュウアユが生息する環境に改善に貢献できていると考えられるため、今後も継続する。						